

日 時：平成24年7月6日（金）14：00～16：40

場 所：福井県国際交流会館 特別会議室

議 題：県都デザイン戦略の論点

出席委員：西村座長、国吉委員、小浦委員、勝木委員、八木委員、開発委員、下川委員、
吉田委員、竹内委員

委員からの主な発言内容

（城址と中央公園のリ・デザイン）

- ・御本丸を除くと、西三の丸が正面に近く、お堀が二重、三重に重なり防衛的に堅固なところ。
城下の特色としても、歴史的にも意味がある場所。
- ・2050年のスパンで考えれば順化小まで含めて計画を立てた方が良い。御座所の復元もだが、
両側にある2つのお堀も上手くいけば、良い復元ができるだろう。
- ・最終的な姿でものをつくるのは時間がかかるので、いきなり恒久的なものをつくるのはどうか。
この場所が変わっていくことを皆が分かるような場所として、お城周辺の模型を置いて市民が議論したり、お堀を見て休憩できる場所として当面使ったらどうか。
- ・市民が歴史に接する資源がないということなので、20、30年かけて一緒に考えながら掘るような遺跡の掘り方もあると思う。

（城址・公園周辺の街区の再編）

- ・お堀周辺がもう少しクローズアップされるよう、常に工夫していくことが必要。福井駅に降りたところで魅力的な空間をつくっていく。公開空地をつくるかわりにボーナスをあげるというシステムとあわせて、お堀に行く道に小さな広場が点在するという工夫をしていく。
- ・全ての道を同じ表情にする必要はない。歴史的なところとモダンなところと、通りごとの表情の作り方を大きな議論の中で選んでいく必要がある。
- ・県と市が合同して、個々のデザインを調整するソフトの仕組みづくりも必要。
- ・福井の特色として、大きな通りがお堀に面していないので、ここを逆手にとって、歩くことを上手く誘発する戦略を創れば面白いだろうし、工夫の余地がある。
- ・このエリアには企業もたくさんある。シェアビルディングなどで、一企業単位の負担を減らしていくようにやっていくことも必要。

（貴重な歴史資源の保全・活用）

- ・歴史的資源もあるが、生活している人たちに絡みがない。歴史的資源が日常生活レベルで市民に利用できるものとしてまちが作られていくのがベスト。
- ・歴史を中心に発展的に福井を変えていくために、旧町名を復活することが今すぐにやらなければいけないこと。

- ・戦災復興も今や歴史。昭和の始めと後期の歴史で駅前を作っていることは意味がある。歴史を踏まえるとは、新しい歴史をつくることでもある。

(県都の玄関口の再設計、まちの顔となる空間の形成)

- ・全体を広く公園と捉えるならば、駅前からどうつないでいくか、総合的に作り直していく必要があると思う。今動いているこの駅前広場について、どれだけうまく調整できるかが、今回の議論にとって非常に重要になってくる。
- ・デンマークのオーフスで、一週間だけ緑のイベントをした。日頃は僅かな人出だが、たくさんの方が集まった。城址に向かう道路をオーフスのような緑に満ちた空間にしたらどうか。
- ・これからの人口構成を考えると、駅前広場をもう少しコンパクトにする、そして残った空間をどうするか考えた方が良い。時代とともに使用の方法が変わっていくので、恒久的なものをつくらない方が良いのではないか。
- ・新幹線が来ると、観光の拠点や交通の結節点としての駅の機能も重要になる。ワクワク感が演出できるような機能が必要だと思う。
- ・これから歴史を積み上げていくというスタンスが良い。例えば環境の問題を考えると、歩行者、自転車、電気自動車のゾーンがあってから、車輻ゾーンがあるという仕組みを今から作っていくのも一つの考え方。
- ・西口広場からの見え方で、お店の看板が福井を降りたときのイメージを悪くしている。せめて看板くらいなんとかならないか。

(人や環境にやさしい交通ネットワーク)

- ・このまちは歩道も広いし、自転車レーンが作りやすい。雪は降るが自転車の可能性は高い。金沢、富山でもレンタサイクルを先行して始めたので、うまく取り入れて、一番良い方法を考えていけるのではないか。
- ・駅は外から来る人の玄関口であるけれど、同時に郊外から来る人の目的地でもある。都市構造とか居住との関係も含めたシステムづくりを考えてもいいと思う。
- ・高齢者にとって、公共交通はすごく大きな問題。小さなバスであれば、路地に近いところに路線をつくることもできるだろう。生活に密着した、生活が少しでも楽になるような運行を考えるだけでも、利用する人たちは随分変わると思う。
- ・LRTは良い方向だが、より市民のための足にならないといけない。もしこれを大事に使うのであれば、東西を通さなければいけない。福井市の計画では東西はバスということだが、総合的に考えて欲しい。
- ・路面電車については、魅力的なシナリオを作って実験して、賛成の方が増えていくような方向にできないかと思う。ブラジルのクリチバでは路線をネットワーク化して先進的にやっている。バスもやり方によっては有効。

(まちなかの自然の活用、緑や水を活かしたまちづくり)

- 里山は手を入れないと、どんどん荒れていく。自分たちの里山という意識を持って、大切な足羽川と足羽山を守っていけたらと思う。
- 浜町の事業者としては、文化空間として未成熟の部分が多いと実感している。福井の食文化を合わせて、浜町のライフスタイルとして確立させる、アートを育てるということも始める。こうした市民活動を位置付けるためにも、異人館とか、シンボリックなものがあると、より共感を持って、推進していく力になると思う。
- 足羽山、足羽川の自然とまちをどうつなげるかという視点を抜いてはいけない。
- アジサイは福井の花であるにも関わらず、全国的にアピールする場所もない。足羽山にアジサイをもっと植えて、アジサイの山にして欲しい。